

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYO PET

NUTEC

Jms

OKAYAMA
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GILBERTZ CHRYSLER

本田鉄工株式会社

Quantum
3-VALVE-TECH

RACING PROJECT
BANDOH

2022 シリーズ開幕

『新体制で速さを見せたが、想像していた結果ではなく、苦しいレース展開に』



シリーズ名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2022 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE

レース距離 : 1周 3.703km×82周 (303.64km)

4月16日(土) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

4月17日(日) 天候 : 晴れ / 路面 : ドライ

4月10日(土) 予選 Q1 : 阪口選手 2位 / Q2 : 国本選手 8位 /

公式予選 : GT500 クラス 8位

今シーズンはエンジニアを変更し新人メカニックを増やしメカニックを増員して、体制を変えての参戦となりました。オフシーズンでは色々な事をトライしてきました。もちろん横浜タイヤ開発がメインです。GT500参戦12年目無事に継続参戦できたのも株式会社ウエッズ様を始め、GR関係者の皆様、TCD様のご協力とご理解の賜物であると、この場をお借りして御礼申し上げます。沢山のファンとスポンサー様に支えられてレースができる喜びを感じております。

今年も全国でレースがあるのも非常に楽しみです。

横浜ゴムと共に戦う19号車は昨年のポール2回、2位2回の成績を上回る事すなわち優勝を目標に岡山に到着した。

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKANO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KDC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GURTTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Q-jawit fire
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDO H

2022 年の SuperGT 開幕戦は昨年同様岡山国際サーキットでの開催となった。

TEAM WedsSport BANDO H の今年のドライバーラインナップは 7 年目のベテラン 国本雄資選手に、今年 300 クラスからステップアップした 阪口晴南選手とコンビを組み、3 年目の GR Supra と共に一年を戦っていく。

去年と同様、海外戦がキャンセルとなり、国内 6 サーキットでの開催（富士・鈴鹿が 2 回開催）となり、ファンの皆様に直接、レースをお見せすることが出来る事は喜ばしいところである。

午前中の練習走行では、2 種類のタイヤを試し、占有走行では予選に使わない種類のタイヤを選択して走行した。

結果、44 周を周回し、トップと 1 秒差の 1:19.199（14 位）となったが、上位を目指す為の試行錯誤が続き、ドライバーのフィーリングから大きくセットチェンジをして予選に望んだ。

午後から行われた予選。晴れ渡ったサーキットは予選時気温が 17 度、路面温度が 21 度と低い。

予選 Q1 のアタックは阪口選手。残り 9 分を切ったあたりではかの車と同じタイミングでコースイン。周回を重ねのこり 3 分にて最初のアタックに入ると、1:17.201 を叩きだし暫定トップに躍り出る。そのまま、2 回目のアタックにはいるものの、タイム更新中攻めすぎて途中でスピンしてタイムアタックを中断する事となった。

19 号車のスピンで予選が中断する事はなかったものの、その後、19 号車を上回ったのは 1:17.117 を出した 36 号車のみとなり、19 号車は Q1 を 2 位で通過となった。

Q1 の結果は 16-19-14-39-24-100-12-38 -
（以上予選通過）- 23-8-64-17-37-3-16 となった。

Q2 のアタッカーは国本選手。Q2 の開始直後に 19 号車が先陣を切ってコースインして周回を重ねていく。残り 3 分にてタイムアタックに入ると、1 度目のタイムアタックで 1:17.572 を出し、暫定トップに躍り出る。しかしコントロールタワーから四輪脱輪の疑いがあると報告があり、ドライバーにその旨伝え、その次の周もタイムアタックに入ると、1:18.126 を出したがタイム更新とは成らなかった。その後のアタックで 19 号車のタイムを 14,39,100 号車が上回り、結果 4 位となった。

その後、ベストラップ時の走行について走路外走行の判定が出たためタイムが抹消となり、2 度目の 1:18.126 のタイムが正式な Q2 のラップタイムとなり、19 号車の順位は 8 番手となりました。

Q2 の結果は 14-39-100-38-24-36-12-19。

明日の決勝は、8 位からのスタートとはいえ、予選でのラップタイムの好調さを保持しつつ、トップを目指して爆走していきます。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKANO ExpPress

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WellVets
- Animal Wellcare Group -

KBC DENTAL CLINIC

GLOBAL RACING SYSTEM

本田鉄工株式会社

QUANTUM fire
タイヤ・カーデンサ

RACING PROJECT
BANDOH

予選コメント

【坂東監督】



『速さは見せられて満足はしています。タイヤも凄くグリップしてくれてドライバーもフリーからかなりタイムアップ出来ていたのが笑顔でした。全体タイムでも予選中は2番手でした。』

4輪脱輪はもったいなかったがそもそもランプランの中で僕の判断ミスもあり、予選のタイヤがQ1Q2で種類の違うタイヤで走行してもらったのが勿体なかった。今後は路面状況などをもっと把握しながらフリー走行でも調子の良い車作りを目指します。』

【国本選手】



『Q2 担当でした。良い感じアタックしていたのですがトラックリミットオーバーでタイム抹消になり残念な結果となりました。フリー走行では車のバランスが良くなく、予選に向けてチームがデータ解析をしてくれてセットチェンジをして良い形で予選に向かう事が出来 Q1 突破しも Q2 も良いフィーリングでした。午前中のフリー走行でしっかりデータを取る事が出来ず、明日の決勝は不安なところもありますが8番手から追い上げられるよう精一杯頑張ります。横浜タイヤと共に頑張ります。決勝も応援してください。』

【阪口選手】



『Q1 担当で2番手でした。タイムを出した後、更にプッシュして翌周スピンをしてしまったことは反省する部分ですが車のパフォーマンス、タイヤのパフォーマンスはあの時点ではトップだと思っているのでタイヤ、マシンには感謝しています。明日は路面温度が上がるのでどのようなレース展開になるかわかりませんが力強い走り頑張りますので応援よろしくお願い致します。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO
Express

DIESEL AID

FUJITSUBO
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Group —

KBC
DENTAL CLINIC

GLOBAL
GLIMETIC CRYSTAL

本田鉄工株式会社

PowerTime
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT
BANDOH

決勝

素晴らしい天候の元、岡山国際サーキットで開幕となった第1戦。

2022年シーズンとなり、500クラスの空力開発が解禁されたことと日産がベース車両の変更、ホンダがベース車両の仕様変更を加え、それをトヨタGRスープラが受けて立つという三つ巴の争いが激化する事が予想された。

スタート前に航空自衛隊のF2戦闘機3機によるウェルカムフライトが行われ、レースに華を添えた。気温23度、路面温度35度と予選に比べて上がっており、予選結果とは異なるレース展開が予想される。全車サクセスウェイト無しのガチンコバトルを制するのはどこか。

4列目、8番手からのスタートとなった19号車のスターティングドライバーは国本選手。午後2時からフォーメーションラップを2周し、スタートが切られた。1周目で戻ってきた19号車はスタート直後タイヤのウォームアップに若干苦しみながら順位を10番手まで落としてしまった。(23、17号車にパスされ2つ順位を落とし10位)。その後、7番手の36号車が先頭のサードグループの中にて周回を重ねていく。後ろから8号車の追撃にさらされつつも、8周目以降、300クラスをかき分けながら前を追撃していくが、10周目に8号車そして3号車にパスされて12番手まで順位を落としてしまう。15周目でのトップとの差は約31秒。

18周目に、前の周に後ろの64号車をパスした37号車が背後に付くとパスされ13位に。

早くもミニマムステイットの29周目にピットに入る車が出る中、19号車もピットに入り、タイヤ交換、燃料給油を行い、ドライバーを阪口選手に交代。暫定15位にてコース復帰。

41周目には、前の64号車をとらえるものの、徐々に引き離されてしまう。

66周目に24号車と300クラス車両(96号車)との接触からの流れで、96号車が1コーナー手前でクラッシュし、68周目にFCYが入った。

FCY解除後、24号車がクラッシュの影響で順位を落とした為、19号車は14位を単独走行する事となる。

残り5周で300クラス同士のクラッシュから2度目のFCYが入る。再開後は、前を走っていた64号車を19号車がオーバーテイクし13位でチェッカーを受けることとなりました。





レースはポールポジションの 14 号車が、オープニングラップで襲いかかった 39 号車をかわすと、2 周目以降、2 位以下を徐々に引き離しにかけ、15 周目で 2 位との差が約 11 秒となると、31 周目にピットに入るまで約 20 秒のマージンを築き、ピットアウト後も 2 位以下を引き離し、2 度の FCY も関係無く、14 号車が昨年に続きポルトウインとなった。2 番手は 1 度目の FCY からの再スタートにてさらに激化した 2 位争いを制した 100 号車が、3 位は 23 号車となりました。

以下、38-3-36 - 12-39-17-8-37-16-19-24-64 となりました。

残念な結果となりましたが、次戦の富士では表彰台を目指し、爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。

次戦は 5 月 3.4 日富士スピードウェイで開催されます。

決勝コメント

【坂東監督】



『全てが想定外。国本選手のステイントでタイヤ温度と路面温度が合わなかった為、自分の判断で阪口選手には違うタイヤで走行してもらった。本来であれば路面温度が下がって来る状態で同じタイヤでも良かったともレース後には思いました。半分、半分で同じタイヤでも予選とのパフォーマンスが違いすぎるので決勝に向けたセットチェンジの部分も今後の課題として受け止め、すぐに鈴鹿テストで色々トライしていきます。今回は予選での速さと決勝レースとの差が大きいのでデータを分析して富士に挑みたいと思います。沢山の応援ありがとうございました。』

【国本選手】



『結果はポイントが取れませんでした。前半ステイントを走行しましたスタートから自分たちが思ったパフォーマンスは出せませんでした。後半ステイントは違うタイヤで勝負したのですが厳しい状況でした。今回のデータを持ち帰って検証してみます。今週末はデータから持ち込みセット考えて持ち込んだのですがフリー走行は上手くいかず、そこからセットチェンジをして予選は良いパフォーマンスを出すことが出来ました。』

土日で路面状況など色々な事が変わってしまってレースの結果は出せませんでした。完走することでデータも取れたので次に繋がる事も沢山ありました。

良かったこと、悪かったことを活かして次の鈴鹿テストそして富士レースに向けてトライしていきます。次戦富士も応援よろしくお願いします。』



【阪口選手】



『セカンドステント 50 周以上走行しました。国本選手とは違うタイヤを装着したのですが予選で使ったパフォーマンスは出なかったです。苦しいレースとなりましたが改善点は明確になったのでポジティブに捉えて、反省点を常に頭に入れてタイヤ開発を今後は進めて行きたいと思っています。応援ありがとうございました。』